

新型コロナウイルス 感染症の対策も必要に

災害時に多くの人が集まる避難所では、3密(密閉・密集・密接)の状態になりやすく、感染拡大のリスクが高まる恐れがあります。滞在スペースの確保や衛生管理などの感染症対策を行うことが必要です。

避難所で行う主な感染症対策

- ・受け付け時に避難者の体温や健康状態を確認
- ・発熱などの症状がみられる避難者には別室を案内
- ・滞在スペースの世帯ごとの間隔や通路の幅を2m以上(最低1m)空ける
- ・手洗いや咳エチケットの徹底
- ・30分に1回以上の換気
- ・定期的な消毒

本年7月17日に行った
避難所の運営訓練



▲受付では職員が避難者
役の体温を測定

◀発熱などの症状がない人
の滞在スペースも、世帯ご
とに2m以上の間隔を確保

今一度確認しよう!

- ・住んでいる地域にどのような危険性があるか
- ・備蓄品や非常持ち出し品は十分か
- ・地震や大雨が発生したときの避難行動

← 4~7ページをチェック!

いつ起こるかわからない、地震や大雨といった自然災害。現在は感染症の流行による生活の変化などから、もしものときへの不安が増している方が多いかもしれません。この特集では、日頃からできる備えや、災害発生時に取るべき行動を紹介。命を守るために一人一人ができることを確認していきます。

【詳細】危機管理対策課(21) 3062

平成26年9月11日
豪雨



わが家の 災害対策

見直そう

道内で初めて大雨特別警報を発表。市内では建物の浸水や道路の冠水など187件の物的被害が確認され、特に南区常盤地区では、0時から7時までに268mmという過去に札幌では例が無い雨量が観測されました。



真駒内御料札幌線

全国で豪雨災害が多発

平成30年7月に発生した豪雨では、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨が降り甚大な被害をもたらしました。また、本年7月にも、九州地方をはじめとする広い地域で大雨が発生。多くの人命や家屋への被害が生じたほか、ライフラインや地域の産業などに大きな傷跡を残しています。

平成30年7月豪雨の被害状況	令和2年7月豪雨の被害状況(8/17現在)
人的被害 死者237人	人的被害 死者82人
負傷者433人	負傷者29人
建物被害 住家50,470棟	建物被害 住家17,795棟
全壊6,767棟	全壊296棟
半壊11,243棟	半壊1,413棟
その他32,460棟	その他16,086棟

過去には 札幌でも大災害が発生

私たちの住む札幌でも、近年大きな災害が起こっています。市内の広い範囲で震度5弱以上の揺れが観測された平成30年の北海道胆振東部地震や、避難勧告を6区約78万人に発令した平成26年9月11日豪雨は、記憶に新しいところです。



清田区里塚地区

北海道
胆振東部地震

平成30年9月6日未明に発生。市内では3人が亡くなられたほか、3万棟以上の建物が被害を受けています。大規模な停電や断水にも見舞われ、市内各地が混乱しました。



日頃からできる備え

備蓄品・非常持ち出し品の見直し



自宅の数日間過ごせる備えを

備蓄品は十分に用意しておくことが大切です。自宅から避難する場合には、感染症対策に必要なものと一緒に持ち出す必要があります。非常持ち出し品は、リュックなどの持ち出し袋に入れておきましょう。

✓ 備蓄品・非常持ち出し品の例

❄️ = 冬の寒さ対策のために必要なもの

- 備蓄品** 家に備えておくもの
- 食料品・飲料水(1人1日3L)⇒最低3日分用意
 - 粉ミルク・液体ミルクなど
 - ランタン⇒火災予防のためLEDなどが望ましい
 - 乾電池・携帯電話のバッテリーなど
 - カセットこんろ
 - 携帯トイレ
 - 水の要らないシャンプー
 - ティッシュペーパー
 - 給水ポリタンクなどの給水容器
 - ビニール袋
 - 工具・ロープ
 - 救援時のホイッスル
 - ペットの餌
 - カセットボンベや灯油式のポータブルストーブ❄️
 - 段ボール・防災保温シート・新聞紙❄️
 - 発電機⇒一酸化炭素中毒の恐れがあるため、屋内や車内はもちろん屋外でも換気の悪いところでは絶対に使用しない❄️

- 非常持ち出し品** 避難時に最低限持ち出すもの
大事なものにはビニールケースに入れると防水に!
- 食料品・飲料水
 - 粉ミルク・液体ミルクなど
 - 現金・貴重品
 - 携帯ラジオ
 - 懐中電灯
 - ライター・マッチ
 - 生理用品
 - 厚手の手袋
 - 救急医療品・常備薬
 - お薬手帳
 - ペット用品(餌など)
 - 寝袋・毛布❄️
 - 衣類・長靴・防寒衣❄️
 - 使い捨てカイロ❄️

感染症対策のため持ち出し品にプラス!

- マスク
- 消毒液
- 体温計
- スリッパ・上履き

住んでいる地域の危険性を確認



1 安全な場合は在宅避難を基本に

避難所は3密(密閉・密集・密接)の状態に近く、衛生状態が悪くなりやすい環境です。災害の危険性がない場所にいる場合は、避難所に行く必要はありません。まずは自宅周辺の危険性を確認しておくことが重要です。

✓ 地域の危険性を確認する方法



各災害が起こった場合の危険性を色で塗り分けて示した地図で、地震、洪水、土砂災害、津波の4種類に分けて作成しています。地域の避難場所や、災害が起こったときの避難行動なども記載しています。
配布場所区役所(1ページ)、市役所7階危機管理対策課

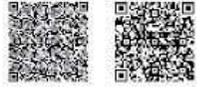
札幌市 ハザードマップ 検索

市防災アプリ「そなえ」



スマートフォンで、エリアごとのハザードマップや避難場所の位置を確認できるほか、アプリを開いている地点の危険度を災害別にアニメーションで見ることができます。

利用方法右記のコードを読み取ってインストール



札幌市 そなえ 検索 <iPhone版> <Android版>

家族構成などに応じた冊子も配布しています

災害時における乳幼児栄養ガイド

乳幼児がいる家庭向けの防災グッズや、災害時の授乳・食事の要点をまとめています。
配布場所区保健センター



災害時における乳幼児栄養ガイド 検索

犬と猫の防災手帳

ペット向けの日頃からの備えが分かるほか、ペットの情報を書いて持ち歩くのにも便利です。
配布場所区保健センター



犬と猫の防災手帳 検索

2 安全な地域にある親戚・知人宅への避難も検討

避難できる場所は自宅や市が指定する避難場所だけではなくありません。親戚や知人が安全な地域に住んでいる場合は、緊急時の避難先としてよいか事前に相談しておく、万が一のときのスムーズな避難につながります。

3 安全が確保できない場合はためらわずに指定緊急避難場所へ

地域の危険度は災害の種類によって違うため、市が指定する避難場所は災害ごとに異なります。普段歩き慣れている道が災害時に通れるとは限らないので、避難場所まで行くための複数のルートを実際に通って確認してください。



いざというときに
備えて知ろう

災害時に 身を守る行動

大雨が降ったとき



**気象情報の確認を
習慣に**

大雨による災害は一定程度予測が可能な場合が多いです。日頃から気象情報を確認しましょう。

1 警戒レベル・避難情報の確認

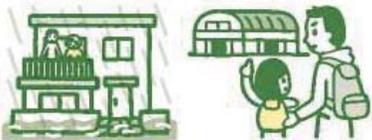
テレビ・ラジオなどで情報を発信しますので、警戒レベルに応じた行動を取ってください。



警戒レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
避難情報	早期注意情報 (気象庁が発表)	注意報 (気象庁が発表)	避難準備・ 高齢者等避難開始 (市が発令)	避難勧告または 避難指示(緊急) (市が発令)	災害発生情報 (市が発令)
取るべき 行動	最新情報に 注意	避難行動を 確認	危険な場所から 高齢者などは避難 移動に時間がかかる人は避難	危険な場所から全員避難 自宅や親戚・知人宅、指定緊急 避難場所など安全な場所へ	既に災害が発生した状況 避難していない人は直ちに 命を守る最善の行動を

2 適切な方法で避難

大雨による災害には洪水と土砂災害があるため、発生場所や災害の状況に応じて避難方法を判断することが大切です。



災害の状況とそれに応じた避難方法		
洪水	・自宅が川に近い ・2階以上に浸水の危険性がある	▶ 浸水前の早い段階で親戚・知人宅や指定緊急避難場所、近くの頑丈な建物へ避難
	・既に浸水している ・激しい雨で避難場所などへの移動が危険	▶ 近くの安全な場所、屋内の高いところや屋上へ移動
土砂災害	・自宅が土砂災害に遭う危険性が高い	▶ 親戚・知人宅や指定緊急避難場所などの安全な場所へ避難
	・安全な場所への移動が難しい ・屋外への避難が危険	▶ 近くの頑丈な建物の2階以上などへ避難 ▶ 屋内の崖と反対側のできるだけ高い階の部屋などへ避難

自分や家族の命を守るために

災害は突然起こるもので、決して他人事ではありません。発生した際の被害を最小限に食い止めるには、日頃の備えや被災時の適切な行動が大切です。この機会に改めて、一人一人が災害への対策に取り組むようお願いします。

冊子を活用して災害に備えよう



地震、風水害などが発生したときに起こり得る事態や取るべき行動を詳しく解説しています。配布場所区役所(1ページ)、市役所7階危機管理対策課

札幌市 防災ハンドブック 検索

地震が起こったとき



**緊急地震速報が出たら
落ち着いて行動を**

地震はいつどこで起こるか分かりません。発生時はスマートフォンやテレビ、ラジオなどで速報が流れます。どのような行動を取るべきか日頃から考えておくことが大切です。

1 すぐに身を守る行動を

家にいる場合

- 机の下などにもぐる
- 座布団などで頭を守る
- 窓や家具から離れる



外にいる場合

- 自動販売機やブロック塀など倒れそうなもの、垂れ下がった電線に近づかない
- 窓ガラスや看板などの落下物に注意する
- かばんなどで頭を守り、公園などの安全な場所へ避難する



車の運転中は

- ゆっくり減速しハザードランプをつけて道路の左側に停車する
- カーラジオなどで情報収集する

2 揺れが収まったら

- 足をけがないようにスリッパ・靴を履く
- ガスこんろやストーブの火を消す
- 戸や窓を開けて避難口を確保する
- 大声で家族の安否を確認する
- テレビ・ラジオなどで正しい情報を入手する



3 自宅で過ごすことが困難な場合は親戚・知人宅や避難場所へ

- ガスの元栓を閉める
- ブレーカーを切る
- 非常持ち出し品(5ページ)を持って原則徒歩で避難する

家具を固定して安全性を高めよう

大きな地震が起こると家具や電化製品が倒れたり落下したりして非常に危険です。家具が倒れそうな方向に寝ない、家具を金具やひもなどで固定する、出入り口をふさがないように家具を配置するといったことができているか、部屋を改めて点検しましょう。

